

6. 林業普及指導

(1) 農林水産技術推進会議林業部会における要望課題検討の採択状況

年 度	要 望 課 題	区 分
平成13年度	1. 砂利採取跡地等の植生回復方法について	D
	2. 千葉県内の森林の有する公益的機能の経済的再評価	B 1
	3. スギ材の用途選別技術の開発	
	①含水率測定器の精度検証	E
	②硬さ・密度測定器による測定	B 1
	③グレーディングマシーンによる非破壊強度評価法	B 1
	4. 長期育成循環施業の技術的合理性の検証と施業体系の作成	B 1
	5. ヤマビル防除対策	D
	6. 間伐手遅れ林分の管理技術指針の作成	C→C
7. スギ非赤枯性溝腐病被害林分の利活用について	F→F→G	
8. 造林マットの開発	F→F→G	
9. シイタケ栽培方法別のパソコンによる経営分析ソフトの開発	F→F→G	

注) 区分

- A₁ 翌年度採用 A₂ 翌々年度採用 B₁ 県内で実施中 B₂ 県外で実施中
 C 現地調査の上検討 D 既に知見 E 実施不可能 F 技術調整部に付託
 G 解決済み H その他

年 度	要 望 課 題	区 分
平成14年度	1. 房総のヒメコマツの保全について	B
	2. 千葉県における里山林整備指針の作成	B
	3. 樹皮を、ペレット状やボード状に加工しての有効利用の検討	B
	4. 丸太の葉付き乾燥技術の確立と人工乾燥コスト低減に及ぼす影響	B, A
	5. 間伐手遅れ林分の管理技術指針の作成	C→C→B
平成15年度	1. マテバシイ林の管理方針について	C
	2. 低湿地に造成した海岸防災林管理の検討	A
	3. 富津海岸保安林における既設防風施設（防風ネット）の見直しについて	B
	4. 森林土木事業における法面緑化工法の検討	A
	5. マテバシイ林の防災的見地からの適正管理	C

注) 区分（平成14年度から採用区分が変更）

- A 新規課題として採用する B 新規課題として採用しない
 C 現地調査のうえ検討する D 技術調整部に付託する

平成16年度	1. 第54回全国植樹祭の植樹会場で造成した森林の今後の調査・検討	A2
	2. 省力・低コストな森林造成技術の開発	C
	3. 木質バイオマス資源の再資源化システムの検証及び生産される炭化物の性能分析・用途開発	C
	4. 木材の燻煙乾燥技術について	A2
	5. マテバシイ林の防災的見地からの適正管理	A2
平成17年度	1. 原木シイタケの新しい害虫フタモントンボキノコバエの防除法の開発	A2
	2. 森林療法プログラムの作成及び効果検証	A2
	3. 九十九里海岸保安林におけるクロマツの天然更新技術の確立	B
	4. マッシュルームの害虫対策について	A2
	5. 木質バイオマス資源（製材残材、果樹・街路樹剪定枝、林地残材等）の再資源化（炭処理）システムの検証及び生産される炭化物の性能分析・用途開発	B→ A3, A2
	6. 省力・低コストな森林造成技術の開発	B→A3
平成18年度	1. サンプスギ材の強度試験	A1
	2. 針葉樹間伐材を利用したキノコ（ナメコ）栽培試験	C
	3. 竹材の利活用について	B
	4. 千葉県における竹林の拡大への対応について	A1, B
	5. 荒廃森林の及ぼす影響と将来予測について	A3
	6. 森林の公益的機能の評価の見直しについて	B
	7. 有害獣被害対策技術の確立	A2
	8. 鳥獣被害を受けにくい作物の選定	A2
	9. 鳥獣害を受けにくい集落の環境づくり	A2
	10. マテバシイとイノシシを活用した地域特産品開発	B
	11. 九十九里海岸保安林におけるクロマツの天然更新技術の確立	B→C

注) 区分（平成16年度から採用区分が変更）

- A1 新規課題として採用する A2 現在実施中の研究課題で対応する
 A3 現地において問題解決する B 新規課題として採用しない
 C 現地調査のうえ検討する D 技術調整部に付託する

(2) 森林研究センターにおける平成18年度試験研究課題一覧表

1 農林水産業の生産力向上

(1) 生産を高めるための栽培・飼育・繁殖・養殖等、千葉県独自の生産技術体系の開発

- ⑩ 農林作物の野生鳥獣被害対策軽減化技術の開発
 - 1 森林・林業に対する獣類被害実態の解明と被害軽減化技術の検討 (18～22)
- ⑩ 特用林産物の安定生産の確立
 - 2 きのか栽培におけるキノコバエの被害防除技術の確立 (17～21)
 - 3 地域性の高い山菜等の安定生産技術の開発 (18～22)

(2) 生産性向上を支える品種の改良開発

- ⑦ 林業用種苗の安定生産技術の確立
 - 4 林業用優良品種の選抜と特性把握 (18～22)
 - 5 マツノザイセンチュウ抵抗性マツの抵抗性評価 (環境保全型事業15～19)
 - 6 森林の諸機能発揮に適した樹種の選抜 (14～22)
 - 7 花粉の少ないヒノキの選抜 (13～22)

2 県民生活を守る環境に調和した農林水産業の推進

(1) 県民の暮らしを守る環境保全型農林業技術の開発

- ⑦ 芝草の無農薬管理技術の確立
 - 8 きのかによる芝草病害に関する試験 (15～19)
- ⑩ スギ・ヒノキ花粉の飛散抑制技術の確立
 - 9 花粉飛散予測技術の確立 (18～22)
 - 10 花粉飛散抑制のための森林造成管理技術の確立 (18～22)
 - 11 植物成長調節剤等による花粉飛散量低減化法の開発 (18～22)

(2) バイオマス等の有効利用技術の開発

- ⑤ 地域資源・未利用資源のリサイクル技術の開発
 - 12 木質バイオマスから生産される炭化物の用途開発 (16～22)
 - 13 未利用木質バイオマスの利活用 (18～22)
 - 14 資源循環型木材乾燥技術の開発 (18～22)

4 農林水産資源の維持増大とその持続的利用

(1) 農林水産資源の維持管理技術の開発

- ③ 多様な森林造成管理技術の確立
 - 15 長伐期化に対応した人工林管理技術の確立 (13～22)
 - 16 マツノザイセンチュウ抵抗性マツによるマツ林の再生 (環境保全型事業15～19)
 - 17 広葉樹二次林の有用樹林化技術の確立 (18～22)
- ④ 森林の病虫害対策技術の確立
 - 18 スギ微害林におけるスギカミキリの被害抑制技術の確立 (18～22)
 - 19 アセタミプリド液剤を使用した減農薬松枯れ防止技術の確立 (環境保全型事業15～19)
 - 20 天敵生物を利用したマツノマダラカミキリ駆除技術の開発 (環境保全型事業15～19)
 - 21 浸透移行性薬剤を使用した塗布等による害虫防除技術の開発 (18～22)

(3) 有用遺伝資源・有用微生物の探索と利用

- ③ 木質廃棄物の分解技術の開発

22 有用微生物による木質廃棄物の分解技術の開発（13～22）

5 消費者ニーズに対応した農林水産物生産・流通・加工システムの構築

(2) 食の安全・安心の確保と機能性を付与する技術開発

⑥ 菌床きのこの安定生産技術の開発

23 付加価値の高い菌床きのこの安定生産技術の開発（15～22）

(3) 農林水産物の流通加工及び品質衛生管理技術の開発

③ 県産材利用促進技術の開発

24 県内における木材製品導入及び定着状況調査（18～22）

25 サンプスギ材の強度試験（18～19）

6 県民の暮らしを豊かにする農林水産業の有する多面的機能の発揮

(1) 森林・農地・水域の持つ多面的機能の評価と維持増進技術の確立

④ 森林の水土保持及び防災機能維持増進技術の確立

26 海岸前砂丘へのクロマツ林造成技術の確立（18～22）

27 海岸低湿地に造成した海岸防災林管理技術の確立（16～22）

28 海岸防災林に混生するニセアカシアの管理技術の確立（18～22）

29 マテバシイ林の山地保全型管理技術の確立（16～22）

30 地形及び地質に適合した法面緑化技術の確立（16～22）

⑤ 森林環境の保全及び森林の活用技術の開発

31 里山の利用目的別整備技術の確立（13～22）

(2) 農山漁村の持つ保健休養・やすらぎ機能等の促進技術の開発

③ 森林療法に効果的な森づくり技術の開発

32 森林療法の効果検証及び評価技術の確立（18～22）

33 森林療法に効果的な森づくりの方向性の検討（17～21）

その他

(モニタリング)

モ－1 酸性雨等環境汚染の長期モニタリング調査

モ－2 森林・樹木による環境モニタリング調査

モ－3 臨海埋立地における環境保全林のモニタリング調査

モ－4 マツノマダラカミキリ発生予察調査

(事業)

事－1 林木育種事業

事－2 森林吸収源インベントリ情報整備事業

注1) 1～6は県農林水産業試験研究推進方針（平成18年度～22年度）の基本目標、(1)～(3)は推進方針中の重点化の方向、①、②・・・は推進方針中の大課題

注2) 1～33は研究課題、()内は研究期間

(3) 平成18年度林業普及指導員の活動実績

(単位：時間)

区 分	普及指導活動				調 査 研 究	情 報 収 集	連絡調整		普 及 指 導 準 備	普 及 指 導 事 務 報 告	研 究 修 講	そ の 他	計
	直 接		間 接 (電話等)	小 計			試 験 研 究・教 育 機 関	市 町 村 其 他 の 関 係 機 関					
	個 別 指 導	集 団 指 導											
計	4,676	3,270	463	8,409	435	1,713	226	495	5,684	671	377	1,097	19,107
普 及 対 象 別 内 訳	林 家	3,619	970	289	4,878								
	会 社 等 の 事 業 体	167	366	43	576								
	市 町 村	305	51	11	367								
	森 林 組 合	288	77	38	403								
	林 研 究 グ ル ー プ	76	488	42	606								
	そ の 他	221	1,318	40	1,579								

注) ・平成16年度の森林法改正により、平成17年4月から従来の林業専門技術員と林業改良指導員の資格が「林業普及指導員」に一元化された。
 ・平成18年度の林業普及指導員は7名である。

(4) 平成18年度林業普及指導員を対象とした研修

研修の名称	目的等	対象者	人員	時期	場所	講師	研修の内容
一般研修	キノコ害虫による被害防除対策	林業普及指導職員	7名	平成18年5月26日	森林研究センター	森林研究センター 石谷森林活用研究室長 中川環境機能研究室長	きのこ害虫の種類とその防除法
特技研修	野生鳥獣(イノシシ)によるタケノコの被害対策	林業普及指導職員	4名	平成19年2月16日	勝浦市市野川地先の山林	指導林家 高旨達郎 森林研究センター 岩澤上席研究員	被害を軽減するための電気柵、防護柵の設置方法

(5) 千葉県の実業を育てる会

回数	年度	視察研修先	内 容	参加者数
1	H 8	栃木県大田原市	間伐材加工、木材共販所	78名
2	H 9	愛知県額田町	林業経営、間伐施業	72名
3	H10	山梨県南部町	富士川林業地（林業経営、木材共販所、竹炭）	73名
4	H11	福島県いわき市	緑川平寿の林業経営	70名
5	H12	宮城県鳴子町、 山形県金山町	中新田エノキタケの生産及び高友林業100年の主伐 金山林業 間伐、山村活性化等森林組合の取組み	157名
6	H13	富山県立山町、 氷見市仏生寺	タテヤマスギ林業地（大スギ、長伐期複層林） ボカスギ林業地（さし穂林業）	85名
7	H14	群馬県利根郡利根村、 沼田市	高性能林業機械等視察、（林野庁 森林技術総合研修所 林業機械化センター） 菌床きのこ栽培技術研修（森産業（株）沼田工場）	71名
8	H15	長野県中野市、長野市	列状間伐（カラマツ） 北辰木材流通加工センター	71名
9	H16	静岡県天竜市 静岡県浜北市	天竜市森林組合（小径木加工場） 静岡県森林組合連合会（原木市場）	71名
10	H17	北海道千歳市	MH グルーラム協同組合（LVL） 千歳林業株式会社（低コスト林業経営）	41名
11	H18	埼玉県飯能市	西川林業（林業経営）、木工品製作・販売所、 木質ペレット製造施設	43名

(6) 千葉県指導林家・林業士認定状況（平成19年3月末現在）

（単位：人）

普及指導区名	指 導 林 家	林 業 士	計	備 考
千 葉	7	9	16	女性1名（林業士）
東 葛 飾	2	1	3	女性1名（林業士）
印 旛	7	3	10	
香 取	2	7	9	
海 匝	1	2	3	
山 武	6	13	19	女性1名（林業士）
長 生	7	4	11	女性1名（林業士）
夷 隅	7	7	14	女性1名（林業士）
安 房	10	9	19	女性1名（指導林家）
君 津	6	10	16	
計	55	65	120	

(7) 林業機械・器具の現況

番 号	機 械 種 名		備 考	単 位	地方公共団体	
					学 校	校
1-1	索 道	索道重量式		セット	0	0
1-2		索道動力式		セット	0	0
2-1	集 材 機	小型集材機	動力10ps未満	台	1	0
2-2		大型集材機	動力10ps以上	台	1	1
3	モノケーブル		ジグザク集材施設	台	0	1
4	リモコンウィンチ		リモコン、ラジコンによる可搬式木寄せ機	台	1	0
5	自走式搬器			台	2	0
6	モノレール		懸垂式含む	台	0	1
7-1	運 材 車		動力20ps未満のもの	台	0	0
7-2			動力20ps以上のもの	台	4	1
8-1	ホイールタイプトラクタ		林内で集材等の作業を行うホイールタイプのトラクタ	台	0	0
8-2	クローラタイプトラクタ		上記でクローラタイプのもの	台	0	0
9	育林用トラクタ		主として地拵え等の育林作業用	台	0	0
10	フォークリフト			台	4	0
11	フォークローダ			台	0	0
12-1	クレーン	運材機能なし	トラッククレーン、ホイールクレーン等	台	2	0
12-2		運材機能あり	クレーン付きトラック	台	0	1
13-1	グラップル	運材機能なし	グラップルローダ作業車	台	0	0
13-2		運材機能あり	グラップルローダ付きトラック	台	0	0
14	トラクタショベル		搬出、育林用等に係わる土工用	台	0	0
15	ショベル系掘削機械		搬出、育林用等に係わる土工用	台	0	0
16	チェーンソー			台	63	7
17	チェーンソーリモコン装置		リモコンチェーンソー架台	台	0	0
18	刈払機		携帯式刈払機	台	59	21
19	植穴堀機			台	0	1
20	動力枝打機		自動木登り式	台	3	1
21			背負い式等の上記以外のもの	台	0	0
22	苗畑用トラクタ			台	0	1
23	樹木粉碎機		伐倒木、伐根、枝条等を粉碎する機械	台	2	0
24	フェラーバンチャ		立木を伐倒、集積する自走式機械	台	0	0
25	スキッド		牽引式集材専用のトラクタ	台	0	0
26	プロセッサ		枝払い・玉切りする自走式機械	台	2	0
27	ハーベスタ		伐倒・枝払い・玉切りする自走機械	台	0	0
28	フォワーダ		積載式集材専用車両	台	1	0
29	タワーヤーダ		元柱を具備した自走式機械	台	2	0
30	スイングヤーダ		簡易索張方式に対応し、かつ旋回可能なブームを装備する集材機械	台	0	0
31	その他の高性能林業機械		従来の高性能林業機械上記7機種以外の高性能林業機械	台	0	0
32	グラップルソー		巻立・玉切り自走式機械	台	1	0

注) 対象の林業機械は、主として伐採、搬出、育林に使用されるもの。(製材工場で使用されるものは含まない。)

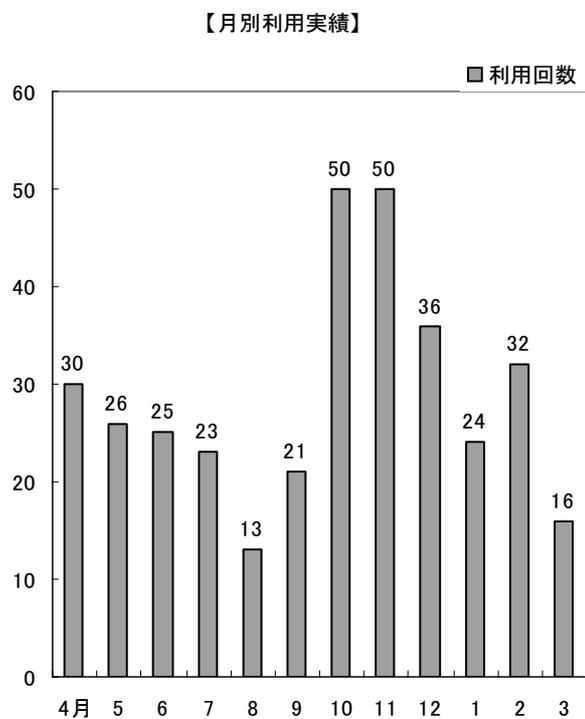
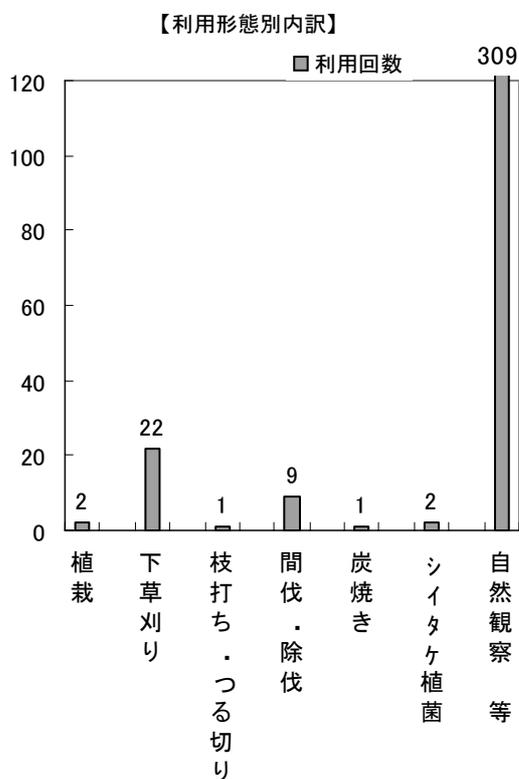
(8) 平成18年度教育の森の利用状況

(平成19年3月31日現在)

農林振興センター名	利用回数			利用人数		
	学校の利用	その他の利用	計	学校の利用	その他の利用	計
千 葉	1	180	181	20	1,268	1,288
東 葛 飾	0	13	13	0	230	230
印 旛	3	0	3	338	0	338
香 取	5	1	6	185	25	210
海 匝	0	1	1	0	15	15
山 武	3	6	9	167	467	634
長 生	6	14	20	289	377	666
夷 隅	13	0	13	2,046	0	2,046
安 房	3	6	9	33	69	102
君 津	91	0	91	4,057	0	4,057
計	125	221	346	7,135	2,451	9,586

注1) 学校の利用は主として授業時間での利用

2) その他の利用とは1) 以外の利用を指す



(9) 教育の森の認定数

(平成19年3月31日現在)

農林振興 センター名	年度別認定数														
	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	累計
千葉						(4)	(3)	(3)	(2)	(1)	(3)	(3)	(3)	(2)	
	4	3	3	2	1										12
東葛飾						(2)	(2)				(2)	(2)			
	2	2	—	—	—						1				5
印旛						(5)	(4)	(2)	(1)	(2)	(4)	(3)	(2)		
	5	4	3	2	2				1						13
香取						(4)	(3)				(6)	(3)		(1)	
	4	6	2	1	—		2		1		1	1			10
海匝						(3)	(3)		(2)	(1)	(3)	(2)			
	3	3	—	2	1						1	1			8
山武						(4)	(5)		(1)	(1)	(5)	(6)		(2)	
	5	5	1	2	1	1	1		1		1				15
長生						(5)	(5)	(2)	(2)	(1)	(4)	(3)	(2)	(2)	
	5	5	3	2	1								1	1	14
夷隅						(1)	(3)	(1)		(1)	(1)	(1)	(1)		
	2	4	1	—	1					1					5
安房						(5)	(4)	(2)	(1)	(1)	(4)	(3)	(1)	(1)	
	5	5	2	2	1			1		1					11
君津						(4)	(4)	(4)	(3)	(1)	(6)	(5)	(4)	(3)	
	4	4	4	3	1	2	1				1				20
計						(37)	(36)	(14)	(12)	(9)	(38)	(31)	(13)	(11)	
	39	41	19	16	9	3	4	1	3	2	5	2	1	1	113
累計	39	80	99	115	124	125	124	120	119	121	124	117	115	113	

(10) 教育の森の利用実績の推移

農林振興 センター名	年度別利用回数										年度別利用人数								
	～10	11	12	13	14	15	16	17	18	計	11	12	13	14	15	16	17	18	計
千葉	97	23	18	18	18	12	5	24	181	396	320	311	287	236	151	97	189	1,288	2,879
東葛飾	0	0	0	1	4	6	6	7	13	37	0	0	32	131	175	158	310	230	1,036
印旛	21	10	15	11	12	13	9	0	3	94	1,285	1,960	1,431	1,546	1,485	473	0	338	8,518
香取	10	2	0	0	1	1	1	5	6	26	80	0	0	20	100	10	223	210	643
海匝	4	2	2	6	5	2	0	1	1	23	50	55	106	50	20	0	10	15	306
山武	35	12	29	29	14	10	8	11	9	157	562	991	709	341	207	466	310	634	4,220
長生	0	2	1	5	12	14	17	21	20	92	83	72	328	386	420	510	616	666	3,081
夷隅	4	4	6	9	0	12	13	13	13	74	67	162	142	0	1,480	2,055	2,462	2,046	8,414
安房	6	3	2	6	7	2	14	11	9	60	170	40	346	53	12	135	127	102	985
君津	31	8	50	85	101	67	77	120	91	630	438	5,347	5,244	5,460	3,878	3,585	4,925	4,057	32,934
計	208	66	123	170	174	139	150	213	346	1,589	3,055	8,938	8,625	8,223	7,928	7,489	9,172	9,586	63,016

平成10年以前の利用人数はデータがなく不明。